

協議会委員参加者

田中 恒子 (地域教育相談員)

西田 芳正 (大阪府立大学人間社会学部教授)

仲島 浩 (和泉市立和泉中学校長)

山野 正広 (和泉市総務部人権・男女参画室長) 運営協議会副会長

- (1) 副会長挨拶
- (2) 総合学科の3年間を振り返って 成果と課題
- (3) 平成31年度 学校教育自己診断の分析と評価
- (4) 平成31年度学校経営計画の評価及び令和元年度学校経営計画の概要
- (5) 本校の教育活動に関する意見交換
- (6) 校長謝辞

[主な質問、意見等]

○は質問、 →は答え、 ●は意見や感想

- 総合学科になって、発表する機会を増やし、問題解決の力を身に付けさせるのはよい取り組みといえる。
- 総合学科の発表大会とはどのような形か。
 - 校外での大会と、校内での大会がある。
校外の大会へは、校内で選考を行い代表者が出場する。
校内の大会では、全生徒が何らかの形で発表することになる。
 - 3年生での発表大会を、最終目標にして、1年生から指導している。
1年生から、夏休みの体験や、進路について調べ学習を行い、発表の機会を設けている。
- 専門学校に進学を決めた生徒の中には、お金の目途が立たない生徒がいる。
進学か就職課ではなくて、高校を出て働くか、大学や専門学校を出て働くか、働くということを最終目標にした指導が必要。
- 進路については、できるだけタイムリーになるかかわり方が重要。1年たてば環境も変わり、状況も変わる。自立心を養うことも必要。仕事を知るうえで、アルバイトを経験するのもよいの

では。アルバイトをしている子は、気働きができる。

- 奨学金の返済で苦しんでいる生徒がたくさんいる。返済計画を含めて、指導する必要があるのでは。
- 部活動の活性化が課題である。
- SSW を月に 1 回利用している。
- 地域との交流はどうなっているのか。
 - 本校教員が中学校に行って模擬授業をしている。泉大津市との交流なので、和泉市とも交流していきたい。また、本校の生徒が出身中学校に行って、中学生のときにがんばっておいたほうがよいことや学校生活、学習についての中学校と高校の違いなどを話す出前講演を行っている。
- 中学生は、進学先を決めるにあたって、いろいろな外部の説明会に参加している。卒業生を呼んでパネラーになってもらったり、卒業生の言葉を映像で見せたりする。高校ではその点はどうか。
 - 看護系については、看護学校合格者や卒業生に講師となってもらい、先輩の声を聴く形での説明会を実施している。
- 高校卒業の後就職した生徒は、やめずに続いているのか。追跡調査はしているのか。
 - 毎年、卒業生について、5月の連休の頃、確認している。その後については、追跡できていない。来年 府立で1校 モデル校となり、追跡調査を行うことになっている。
- 中学校で学力上位層の生徒は、将来何になりたいというプランができています。伯太へ進学する生徒の多くは、みんなが行くから高校へ行くということは決めてはいるが、そのあとのプランがない。
- 進路を通じて、卒業の時に、この学校に入学してよかったと思ってもらえるように、指導を続けていってほしい。
- 学校自己診断の授業に関する数値が上がっているのはすごい。授業を参観させてもらっても、先生が工夫しているのがわかる。はつらつとしているのもよい。
- 学校教育自己診断の回答数は
 - 保護者は全体の1割で、回収率については学年が上がるにつれて低くなる。生徒はほぼ回答。